



バンコク日本人学校の新しい生活様式

第2小学部 教頭 金指 由香里

1 初めてのインターネットを活用した在宅学習

「おはようございます」の音が響くレインボーゲート、友達と夢中になって話し合いをしている教室、プールには臨海学校の遠泳練習をする5年生がいました。1年前の日常の普通の学校生活が、どれほどかけがえない大切なものであったのかを思いつつ、主人公である子供たちがいない学校を歩いています。

「インターネットを活用した在宅学習」がスタートし、1か月が過ぎました。保護者の皆様の多大なご支援と、子供たちの頑張りで、学習を進めることができています。これまでのご理解・ご協力に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

タイ教育省・私学監督局からの指示で、4月からの登校学習ができない状況となった3月下旬から、急遽在宅学習についての検討と準備を始めました。本校のネット環境の実態や、ご家庭で使用できる端末機の状況等を考え、ご兄弟がいても時間をずらして学習できる「オンデマンド型の授業配信」を行うことにしました。私たち教員も経験がない在宅学習です。とにかく手探りで、配信授業を作成し、5月1日の稼働に何とか漕ぎ着けました。

これまでご家庭から学校メールへのお問い合わせをいただきました。開始当初は、ご家庭の端末機等に関わるご質問、Google Classroomへの接続や使い方、配信PDFや映像への接続に関するものでした。第2週目からは、実技教科や英語の配信等に対するご質問が多くなりました。第4週目を過ぎると、中学部では課題提出や評価について、小学部では学年に応じた配信の量や内容についてご意見が来るようになりました。

2 「学び合い」の大切さ

そこで小学部では、6月1日から3日まで在宅学習について保護者アンケートを実施しました。その結果、配信の量や内容について、どの学年も「約5～6割がちょうどよい、約2割がやや多い、約2割がやや少ない」という実態でした。また、自由記述では「先生が授業や説明をしている映像が欲しい」「少しでも、双方向の時間があるといい」「先生や友達の表情を見る機会が欲しい」等の他、多くのご意見が寄せられました。

これまでの教室での対面型授業では、教員は子供たちの反応・表情・発言を見取りながら、授業を進めてきました。立ち止まり、振り返り、子供の学びに寄り添いながら授業を進めてきました。そして、子供たちは友達と学び合うことで、学びを深め、確かなものにすることができました。アンケートのご意見を讀ませていただくと、改めて「学校での学び」は、人と人とのつながりや触れ合いの中で「学び合う」ことだと再認識しました。

インターネットを活用した在宅学習であっても、同時双方向型授業であれば、対面型授業に近づけるかもしれませんが、現在のところ本校では実施が難しい状況です。教員自身も試行錯誤の連続ですが、小学部では今回のアンケートのご意見を真摯に受けとめ、中学部ではこれまでの生徒との限定コメントでの交流を活かして、今後も画面の向こうの子供たちが笑顔で楽しく学ぶことができるように、工夫した授業配信に取り組んでまいります。今後、小学部ではGoogle Meetを使って双方型の配信を一部導入する検討を、中学部では電話による保護者へのご挨拶等を予定しています。

いずれにしても、アンケートへのご協力、ありがとうございました。

3 新しい学び方へ

タイ政府による臨時休校指示が6月30日で終了することになれば、本校も7月1日から分散登校という形で登校を開始する予定です。登校日以外は、これまでと同じ授業配信による在宅学習の予定です。このような対面型学習（学校での学習）と在宅学習（インターネットを活用した学習）の併用は、社会変革の中の新しい学び方とも言われています。今、子供たちは、第2次世界大戦後、最大の日本の教育変革期の中にいます。ICTを活用し自分で学ぶ力を伸ばすこと、人と関わって学ぶことで人間性を高めること、どちらも未来を生きる子供たちに必要なことではないでしょうか。

今こそ、子供たちの命を守り、学びを保障するため「バンコク日本人学校の新しい生活様式」等に基づき、ご家庭と学校が共に手を取り合って歩んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします。

※分散登校に関する詳細（グループ分け、登校日、日課等）につきましては、学年の Google Classroom に掲載されている「学校だより」をご覧ください。